

6月定例会の一般質問用語解説

一般質問（9～18ページ）で赤表記した用語を解説します。

1 田んぼダム

→p10

大雨のときに水田へ一時的に雨水を貯め、街や川の洪水・浸水被害を防ぐ防災の仕組み。排水口にV字カットの堰板をつけるだけで安く導入できる。

2 トモセラピー

→p13

高精度放射線治療装置。周囲の正常組織への影響を最小限に保ち効果的な照射が可能。

3 ラーケーション

→p14

保護者の休みに合わせ平日に学校を休み、親子で校外学習を行う新しい制度。

4 オーバードーズ

→p16

医薬品を決められた量を超えてたくさん飲んでしまうこと。

5 ペロブスカイト太陽電池

→p16

国内研究者が開発した次世代型の日本初の技術。従来のシリコン製に比べ、【薄い・軽い・曲がる】という特徴と弱い光でも効率よく発電可能で、設置場所の可能性は格段に広がる。現在は官民を挙げて、技術向上と実証実験を各地で行っている。

6 オリフィス

→p17

洪水被害を軽減させるため、調整池からの水の流出量を、雨量に関係なく一定に保つ仕組みのこと。

7 RSウイルスワクチン

→p17

RSウイルス感染症による重症化を予防するためのワクチン。RSウイルスは、乳幼児や高齢者が肺炎や細気管支炎を引き起こしやすく、特に生後6か月未満の赤ちゃんでは入院が必要になることがある。

8 職住近接産業拠点

→p18

仕事をする場所と住む場所を近づけ、交通の便利な地域で働く場と暮らしの場を一緒に育てる地域づくりの計画。

9 指定大規模既存集落

→p18

正しくは市街化調整区域で自己用住宅の建築が認められる「指定大規模既存集落制度」（または大規模既存集落制度）のことで、長年住む人が指定区域内に家を建てられる仕組みや、建ぺい率・敷地などの建築ルールに関する条件のこと。

10 優良田園住宅制度

→p18

良好な自然環境の中、ゆとりある一戸建て住宅の建設を促す制度。市町村の基本方針に基づき、一定の基準を満たすと市街化調整区域などでも住宅が建てられる。各種手続きの緩和が受けられる。

11 農業振興地域内農用地区域内農地

→p18

今後10年以上農地として大切にするべき、原則として建物などを建てられない土地。不動産業界や行政では「青地農地」と呼ばれ、他の目的に使うには厳しい制限がある。



なかがめ きょうへい
仲亀 恭平
(つなぐ)

保健福祉
教 育



難聴は「早期発見」がカギ！ 市民の健康を守る「切れ目のない難聴対策」

問 新生児 新生児の聴覚検査の実施状況は。

部長 令和7年度の受検率は98.6%。

残りの1.4%は入院中や長期の里帰り。

問 新生児 要精密検査のフォロー体制は。

部長 県立総合病院と連携した管理システムにて情報を集約。乳幼児聴覚支援センターが実施するきこえの相談室などに紹介。

問 児童生徒 小中学校の聴力検査 - 実施状況は。

教育長 小学校：99.7%・中学校：100%。

不登校児童においても、後日に検査を実施。

問 児童生徒 難聴の疑いが出た場合は。

教育長 保護者へ医療機関の受診を勧め、学校生活においては教師の話し方や座席配置の工夫、沼津聴覚特別支援学校と連携した支援体制あり。

問 長野県の難聴対策に学ぶ

「長野県難聴児支援センター」を参考に、医療・教育・行政が連携する体制を調査してはどうか。

部長 医療・学校・行政（保健福祉）が連携したネットワークの在り方を調査していきたい。

問 高齢者 高齢者難聴に対する市の認識は。

部長 認知症と難聴については関連があると認識。認知症予防講座で、難聴と認知症リスクについても紹介。



問 高齢者 補聴器購入補助金の効果を伺う。

部長 「会話が楽になった」「外出の機会が増えた」— 8割以上が効果を実感。※R7年度135件

問 補聴器の「正しい知識」

「せっかく買ったのに、雑音がうるさくて使わなくなった」…購入した補聴器を眠らせないための正しい補聴器選び。



部長 ①専門医を受診し、適切な補聴器を選ぶこと。②市内5か所の補聴器センターに相談し、お試し期間を経ってから購入すること。

専門医へ受診

センターに相談

お試し期間